

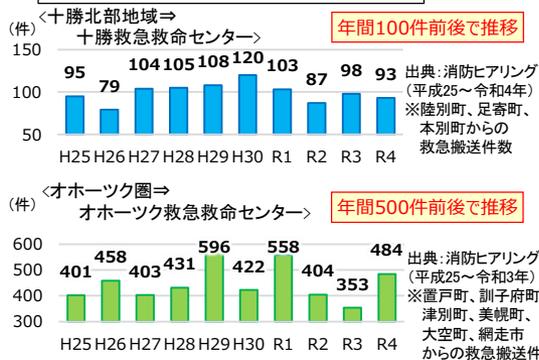
救急搬送の速達性・安定性向上

- ・十勝、オホーツクの救急救命センターは、帯広市、北見市の各1施設で医療圏を担っており、救急救命センター当たりの第三次医療圏カバー面積は、全国平均の約8倍と広域な医療圏
- ・十勝北部地域から帯広市への救急搬送は年間100件前後、北見周辺地域から北見市への救急搬送は年間400~600件で推移しているものの、現道の急カーブや急勾配による搬送患者への負荷が課題
- ・安定走行による患者負担軽減や救急搬送体制確保の観点から北海道横断自動車道網走線の整備が期待

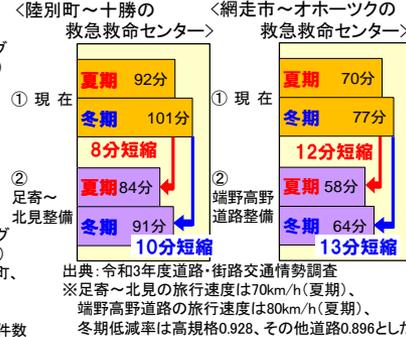
救急救命センター1施設あたりの第三次医療圏カバー面積(上位10位)



救急救命センターへの救急搬送件数



病院までの所要時間



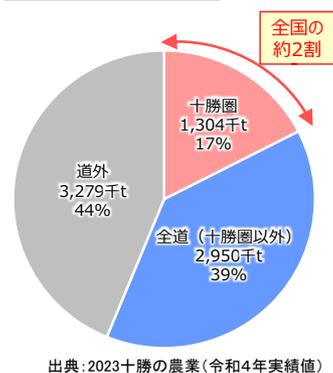
当該道路周辺地域の救急搬送状況



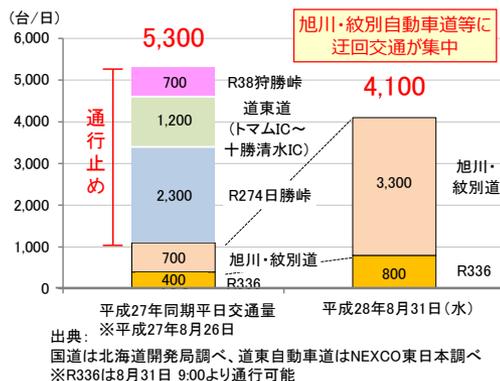
災害時のリダンダンシー確保

- ・平成28年8月豪雨災害により、道央圏と道東圏を結ぶ主要道路網が寸断
- ・国内生産量の約2割を占める十勝産の生乳は、旭川・紋別自動車道等を迂回して苫小牧港へ輸送
- ・災害リスクが高まる中、災害に強い道路ネットワークとして北海道横断自動車道網走線の整備が期待

生乳生産量のシェア



平成28年8月31日(豪雨災害時)に迂回した大型車交通量の交通状況



平成28年8月の豪雨災害発生時の広域迂回状況

